

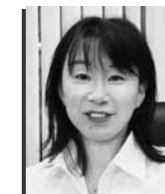
有料老人ホーム・高齢者住宅

選びに強くなる！

第4回
全6回シリーズ

「介護型・自立型有料老人ホームについて Part2」

有料老人ホーム・高齢者住宅は、受け入れ条件から大きく「介護型」と「自立型」に分けることができます。そしてこれら2つは費用からサービス内容まで多種多様で、選ぶ際の着眼点も異なります。前回(2007年12月28日付朝刊)に引き続き、「介護型」「自立型」それぞれの選び方をご紹介します。



やまなか ゆみ
講師: 山中由美さん

株式会社Pro-visionチーフコンサルタント。
シニア生活情報誌「もも百歳」の編集に携わり国内外の老人ホーム300か所以上を取材。

1 介護度が進んだ時の対応を確認

有料老人ホームを探す方に「希望条件」があるように、施設側にも「受け入れ条件」があります。要介護認定を受けている方が入居できる施設が「介護型」、身のまわりのことをある程度自分でできる方を対象とした施設が「自立型」と呼ばれ、条件に合わない場合は入居を希望しても入居できないケースがあります。そしてそれぞれを選ぶ際の着眼点を、前回(12月28日付朝刊)は「予算」「立地」からご紹介しました。さらにいくつか見ていきましょう。

大きな楽しみである「食事」は、重要なポイント。高齢者に味が合うか、栄養バランスが考えられているかなどももちろんですが、通常の食事「以外」についても確認しておく必要があります。介護型は、要介護度が進んだ場合、介護食や治療食などどこまで対応してくれるのか、ぜひ尋ねておきましょう。また自立型の方でも、体調の変化などで、自分で食堂に行くのが大変になる場合もあります。そんな時、食事を部屋まで運んでくれるのか、それには別途費用が必要なのかといったことを、きちんと確認しておきましょう。

表1 心身の状態で入居条件は異なる！

介護型

要介護認定を受けている人が対象。ただしその状態によってさらに細かく入居(退居)条件が定められているので、事前に十分な確認が必要。



自立型

入居時に「自立」していることが原則。要介護に認定されると入居できない場合があるので注意が必要。

2 元気な方でも将来を想定して選択

もうひとつ重要なのが「専用居室」。介護型と聞くと大部屋をイメージする方も多いかもしれませんが、最近は個室が主流。トイレや洗面所、ミニキッチンなどを備えた、10畳ほどの広々とした部屋も多いようです。

しかし、広い部屋が必ずしも高齢者にとって良いとは限りません。特に要介護の方は、転倒の可能性が高いので、転びそうになった時、すぐ壁に手をついて支えられるぐらいの広さの方が安全、とも考えられるのです。

また自立型でも、入居時には元気なので広々とした部屋がいいと思われるでしょうが、何年か経って身体が少しずつ弱ってくると、掃除が大変になったり、ちょっとした居室内の移動も体に負担がかかったりということも起こりうるのです。

さらに、医療も気になる場所。介護型でも、医療行為が必要になった場合は退居しなければならないという施設も少なくありません。その時になってトラブルにならないように、心身の状態が重くなった時の対応を細かく確認しておきましょう。

表2 「介護型」「自立型」ここをチェック！

介護型	自立型
介護食や治療食など、どこまで対応してくれるのか。	食事 体調に応じて部屋まで運んでくれるか。選択メニューやサイドメニューがあるか。
介護のしやすさや、ベッドからトイレまでの動線などが配慮されているか。	専用居室 自分がそこで生活するにあたり必要かつ十分な設備が整っているか。
要介護度が進んだ場合どこまで対応してもらえるのか。	医療 夜間・休日などの急変にどのように対応してくれるのか。

今回のまとめ

将来の身体の変化も考慮に

「介護型」と「自立型」、それぞれに確認しておきたいポイントがあります。また選ぶ際は、現在の視点だけではなく、この先自分の身体がどう変化していくかということまで想定することも大切です。